

大会長挨拶

現在、日本の社会情勢は多くの問題を抱えています。なかでも、三大都市への人口集中とそれに反する過疎化、超少子高齢化に伴う人口割合の変化と人口減少、社会保障財政ひっ迫の懸念などは、私たち理学療法士に直結する問題であると考えられます。

私たちが理学療法士として働くこの兵庫県内の社会情勢も例外ではなく、国が抱える問題、課題とほぼ同様のことを抱えており、日本の縮図であるとも言われています。

そのような地域社会の中で、この兵庫県内で働く理学療法士やその他のリハビリテーション専門職に目を向けると、県内の理学療法の礎を築き、さらに新たなことに挑戦し続ける先人たちの偉大な力を拝見することができます。一方で、変革する時代を読み取り様々な分野で先駆的に活躍する若い力も目のあたりにします。この新旧の力が掛け合わされたとき、兵庫県の取り組みは全国の手本となる将来性を感じ、その可能性を秘めた「いま」が楽しみでなりません。

そこで今回の第30回兵庫県理学療法学術大会は、テーマを「いま、兵庫のリハビリテーションがおもしろい」と題して演題発表に加え、様々な分野で活躍する理学療法士やその他のリハビリテーション専門職の方をお呼びし、現在の取り組みや研究の報告、働き方等についてお話しいただくことを予定しております。ご講演いただく方たちは、そのテーマの通り敢えて兵庫県内で働く方で統一し、身近で共有できる話題をご提供したいと考えています。

また、本学術大会は第30回という節目の大会であることから大会史上初の2日間の開催とし、ほぼすべての会場でシンポジウム形式をとり、演者からの一方通行の講演ではなく双方参加型の活気ある大会にしようと企画しております。

特別講演では兵庫県立総合リハビリテーションセンター 名誉院長の澤村 誠志先生をお招きし「兵庫のリハビリテーション、これまでとこれから（仮）」をご講演いただき、県内のリハビリテーション（広義）の動向を明確にした上で、更には兵庫県理学療法士会 学術局長 檀辻 雅広先生には「理学療法士が進むべき方向～学術的視点から～」というテーマでお話しいただき、私たちが「いま」何をすべきかということを確認にしたいと考えています。

参加者の皆様には、本大会を通して自身の理学療法士としての立ち位置の確認や進むべき方向性、理学療法や兵庫県の未来を考えるきっかけになれば幸いです。

第30回の記念大会として、今までにない開催スタイルで参加者の記憶に残る学術大会、未来への道標となる学術大会にしたいと思います。

運営スタッフ一同、皆様の多数のご参加を心よりお待ちしております。



第30回兵庫県理学療法学術大会

大会長 成田 孝富

(西宮協立リハビリテーション病院)